

越前大野藩関係者の箱館戦争 戦没者の墓碑を訪ねて（一）

南川 傳 憲

一 はじめに

箱館戦争とは、慶応戊申四年八月十九日、旧幕府海軍副総裁の榎本武揚が旧幕臣による蝦夷地開拓を目指して、品川沖を出港し、十月二十日、旧幕府軍は北海道鷲の木（現森町）に上陸、上陸の意図を箱館府（新政府機関）に通達する前に戦端が開かれることになった。これに先立って、新政府は越前大野藩をはじめ、福山藩や弘前藩に出兵を要請し、明治戊申元年十月二十日各藩兵が箱館に到着した。戦役は翌五月まで続き、この間越前大野藩からも十一名の尊い犠牲者を出すことになった。

この間の経緯については、「箱館戦争と大野藩」や「奥越史料」などに報告があり、特

に越前大野市に埋葬された戦没者墓碑については、坂田氏による「奥越史料」の調査・報告が群を抜いている。しかし、昭和四十五年に行われた坂田氏の調査によると、箱館戦争終結後百年余りも経っているため、詳細が不明となっている戦没者もおられたのは致し方ないことである。

著者は越前大野藩関係の箱館戦争戦没者の墓碑を求めて平成二十四年十月三日、北海道を訪問した。その際、越前大野藩戦没者の墓碑が土地の関係者により今も綺麗に清掃され、大切に保存されている事実に接して、とても感動した。また、後述するが、「箱館戦争と大野藩」に収載されている墓碑も現状がかなり変わっていたので、確認で来た範囲内で最新の状況を報告する。

なお、北海道にも大野の地名が存在するので、福井県大野市を越前大野、北海道の大野（現北斗市）を渡島大野と記載する。また、榎本武揚軍を旧幕府軍、それに対して官軍を新政府軍とした。慶応戊申年（明治元年）の戦を戊申の役、明治己巳二年の戦いを己巳の役とし、戊申の役と己巳の役をまとめて記載

する場合には箱館戦争とした。

二 光明寺墓碑

まず、榎本武揚を中心とする旧幕府軍の大鳥圭介率いる隊と峠下（現七飯町）で越前大野藩兵が最初に戦闘に遭遇した。時に、明治元年十月二十四日、新暦では十二月七日からみぞれ交じりの天候であったとされている。しかし、四日前に来援したばかりの越前大野藩兵や備前福山藩兵は勝手がわからぬままおいまくられ、一時間ほどで戦いは終結した。この時の越前大野藩兵戦死者二名の墓碑が越前大野藩が本陣をおいていた光明寺に現存している。光明寺は、函館駅から函館本線で渡島大野まで三十分、さらにそこからバスで二十分前余りの北斗市大野支所近くにあった。北海道新幹線が二千二十五年に開通すると交通機関はどのようになるかは分からないが、便は少ないが函館市内から大野支所を通る直通バスが運行されている。光明寺は函館の高龍寺を本寺とし、明和四年（一七六七年）光明庵として建立されたのを起源とする曹洞宗のお寺である。

光明寺の山門をくぐると、本堂は屋根の葺き替え工事中であつたが、裏手の墓地に越前大野藩の金子庫次郎□と三宅友七□の合葬墓がある。墓碑は高さ六十六センチ、幅二十二センチで、高さ二十センチの二段の台座に載せられていた。其の左隣には備前福山



写真1 光明寺戊申の役戦没者墓碑

計4基

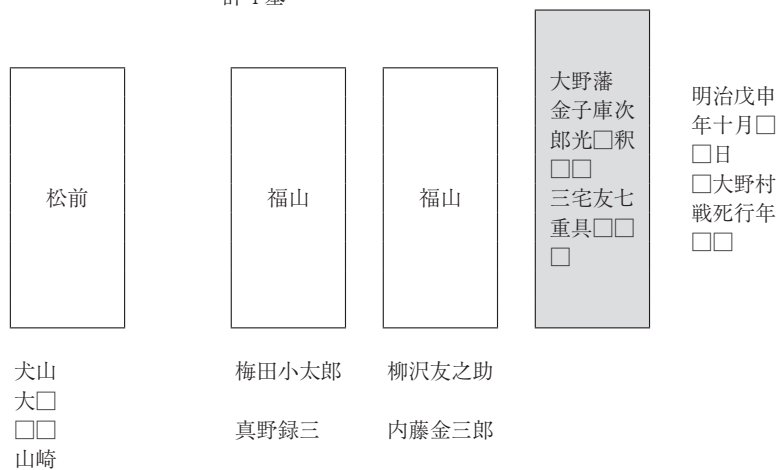


図1 光明寺戊申の役戦没者墓碑見取り図

藩二基、松前藩一基の墓碑があり、藩の費用で埋葬されたことが推測される。その他、旧幕府軍戦死者の合葬墓（永井雙伸斎、網代清四郎）もあつた。

越前大野藩兵はその後、二十四日府知事が

三・江差護国神社

青森に撤退した報に接し、藩舗大野屋の協力なども得て、順次津軽清岸寺（翌年の宿陣）に集結した。

明治己巳二年の正月は陣中で迎え、三日より寒風の中訓練を初めたと、「函館戦争と大野藩」は記している。

四月五日午後新政府軍は軍艦五隻で青森港を出港、四月九日午後四時に江差を奪還した。越前大野藩兵は十日江差本陣（村田勘次郎宅）を出発し、旧幕府軍の制圧に向かった。従って、この江差は新政府軍の本営として武器・弾薬・食糧の補給基地となり、全軍の指揮拠点となった。また、木古内、矢不來の死傷者もまた江差まで回送されたと「江差町史」は記録している。

江差には、函館から一両編成の気動車で木古内まで海峡線、その先は単線の江差線を都合二時間余りの行程である。江差は旧幕府軍の開陽丸が座礁した場所、現在復元した開陽丸を見ることが出来る。

江差護国神社にも箱館戦争戦没者の墓碑があることが分かった。相撲取山の急な坂道を上りつめたところに目的の江差護国神社が

まず、土方歳三が開陽丸の沈没を見て、幹を叩いて悔しがったという「歳三の松」がある旧松山ひやまにし爾志郡役所（現郷土資料館）に立ち寄った。



写真2 江差護国神社 越前大野藩墓碑

里の人々にも知られず、ひっそりと遠い江差の墓地に祀られているのを

あつた。鳥居をくぐると社殿に向かって右から長州藩などの墓碑九三基（同一名の一基は後に遺族が合葬したのでは…）があり、越前大野藩の墓碑（一基）は社殿向かって左側の一番奥の囲いの中に箱館府、水戸藩、久留米藩戦没者碑の中央にあつた。大野藩と刻み込まれているが、風化がかなり進んでいた。いつの間にか郷

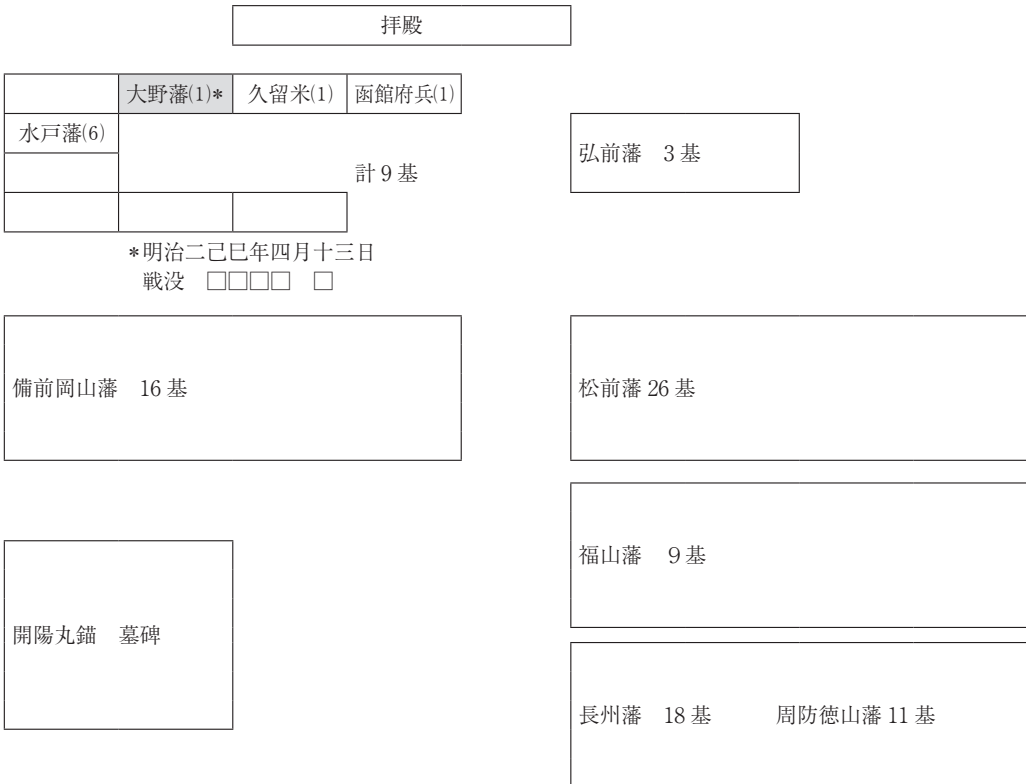


図2 江差護国神社 箱館戦争戦没者墓地見取り図

知って、しばし先人の霊に頭を垂れた。

また、前述したように、江差は新政府軍の指揮拠点であった関係で、「江差町史」には己巳の役の戦没者の記録が正確に残されていた。

例えば、増田家文書「明治二年己巳四月諸藩戦死者名前書」から作成した江差護国神社（招魂場）場外戦死者百七名の中に、己巳の役戦没者として、越前大野藩に関する記載も残されていた。

また、この護国神社は箱館戦争が終結した明治二年秋に江差相撲取山招魂場として建立され、自藩はもとより諸藩の箱館戦争戦没者も加えた墓地として造営された。この招魂場も松之岱神社などを経て今日の江差護国神社になったと「江差町史」には記載されている。

四・函館護国神社

箱館戦争は明治二年五月十八日に五稜郭開城、旧幕府軍の降伏によって終結し、旧幕臣による蝦夷地開拓の夢は潰えた。

函館護国神社は函館山のロープウェイの近くにある。この広い土地を整地したのは、室蘭で降伏した旧幕府軍兵士達で、造成地は明



写真3 函館護国神社 新政府軍墓地

治二年八月に完成し「招魂場」と言われた。さらに、「招魂社」を経て、昭和十四年に「函館護国神社」となり、昭和二十一年に「潮見が丘神社」と改称、昭和二十九年十一月に再び「函館護国神社」となった。

護国神社は函館市電の「宝来町」で下車、緩やかな坂道を登ったところにある。振り返ると、函館港を一望することができる。

神社前の広場に清水谷公考青森口総督（前府知事）の手になる「招魂場」の碑と神社の右手奥にある新政府軍墓地の入り口に一对の石灯笼が奉納されている。

越前大野藩の墓標は全員の十一基が二列に配列されており、その墓碑には氏名、戦没地とその年月日、行年が刻まれていた。この墓地は、「箱館戦争と大野藩」に写真入りで紹介されているが、越前大野藩の墓標のみが見られる。この資料は大正七年三月に刊行されたもので、現在の函館護国神社の新政府軍墓地は越前大野藩の他、薩摩、弘前藩、福山藩などの百六十五柱が合葬され、様相がかなり異なっていた。

ここにも、旧官修墓地の案内板があり、何時の時か合葬され、現在の新政府軍墓地になったものと推測される。

五・まとめ

今回の調査から、箱館戦争を戊辰の役と己

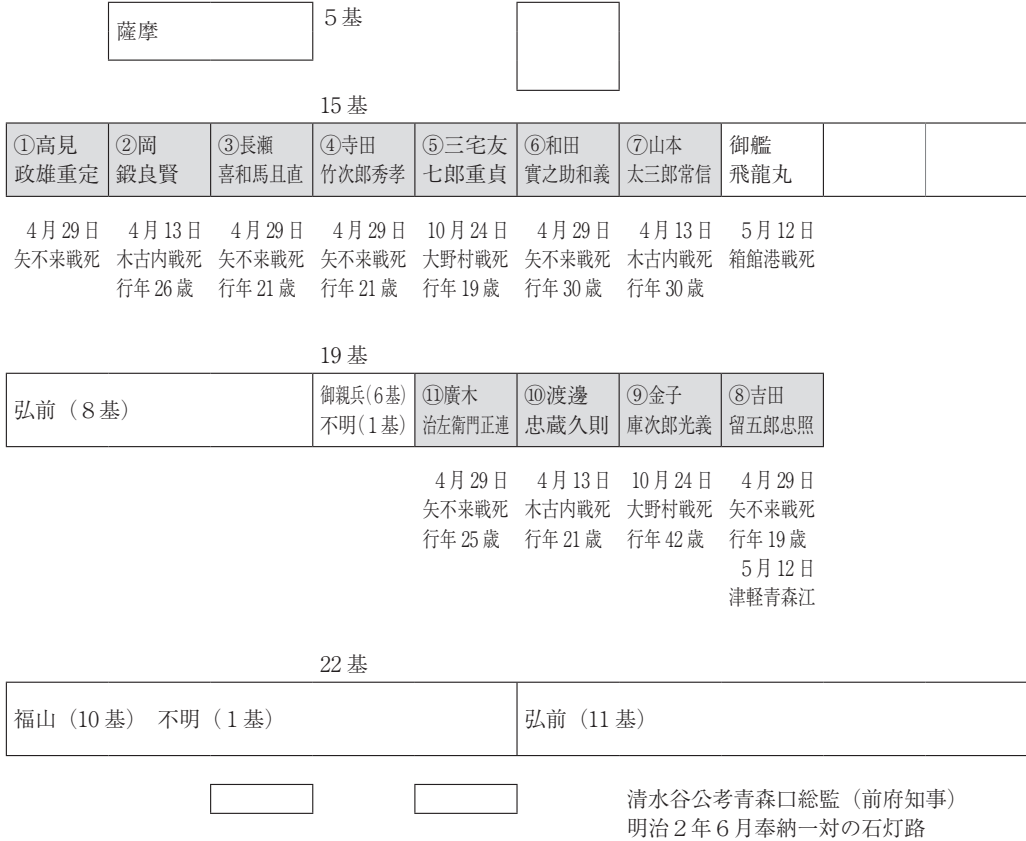


図2 函館護国神社新政府軍墓地見取り図

巳の役に分けて、戦闘地、日時などから、今まで詳細不明とされていた戦没者を整理すると、その全貌がかなり正確に分かってきた。また、記録により氏名(表記)や年齢などが必ずしも一致していないが、その傾向は把握できたと思われる。

その結果を表1にまとめた。

(1) 越前大野藩の箱館戦争戦没者の墓碑は、北海道の渡島大野の光明寺、江差護国神社、函館護国神社に現存し、現在も大切に保存されていた。

(2) 「江差町史」によれば、確固たる記録はないが、函館護国神社は函館府が中心に造営したと言われている。そのため「奥越史料」では詳細不明とされている大野藩戦没者十一名の氏名、戦死地、年月日、行年の記録も、「箱館戦争と大野藩」の記載にほぼ近いことが再確認できた。

(3) 戊申の役における戦死場所は十月二十四日大野村、二名、己巳の役(負傷)場所は四月十三日木古内、三名、四月二十九日矢不來、六名の三方所計十一名にまとめて支障がないと判断した。

(4) 戦死者の年齢は概ね十代が二名、二十代が七名、三十代と四十代が各一名と推定できた。

(5) 残念なことに、個人情報保護法の関係で、寺院などに保管されている「過去帳」の閲覧が極め

て困難で、今回紹介するまでにはいたらなかった。
 これまで何回か、二三日に分けて箱館戦争の越前大野藩関係地を訪問したが、史跡が広い地域に分散しており、調査にはまだまだ時間が足りなかった。

今後とも機会をみつめて、現存する越前大野藩関係の資料・史跡を調査したいと考えている。

参考文献

- ・箱館戦争と大野藩 私立図書館 高島文庫 高島正 大正七年三月五日
- ・奥越史料 第一号 箱館戦争 昭和四十五年十一月二十日
- ・新解 函館戦争 兵頭二十八 二千十二年五月二十九日 元就出版社
- ・箱館戦争 加藤貞仁 二十四年三月十日 無明舎出版
- ・小杉雅之進が描いた箱館戦争 小杉伸一監修 二千五年十月二十日 北海道出版企画センター
- ・箱館戦争史料集 須藤隆仙 編
- ・江差町史 第六巻 通説二 江差町 他

表1 箱館戦争越前大野藩関係戦没者一覧

	戦没者氏名	戦死(受傷)月日	享年	戦死(負傷)場所	墓地		
					越前大野(奥越史料)	函館市	北斗市(渡島大野)
戊申の役	三宅	10月24日	17歳(19歳)	大野村	詳細不明	函館護国神社	光明寺
	金子	10月24日	42歳	大野村	善導寺(無縁の印あり)	函館護国神社	光明寺
己巳の役	岡	4月13日	25歳	木古内	連光寺	函館護国神社	
	山本	4月13日	32歳(30歳)	木古内	連光寺	函館護国神社	
	渡邊	4月13日	(21歳)	木古内	詳細不明	函館護国神社	
	鷹見	4月29日	21歳	矢不来	洞雲寺	函館護国神社	
	長瀬	4月29日	(21歳)	矢不来	詳細不明	函館護国神社	
	和田	4月29日	25歳(30歳)	矢不来	願成寺	函館護国神社	
	吉田	4月29日(受傷)	19歳、5/12青森江(死亡)	矢不来	洞雲寺	函館護国神社	
	廣木	4月29日	25歳	矢不来	願成寺	函館護国神社	
	寺田	4月29日	21歳	矢不来	徳岩寺	函館護国神社	

太字：今回の調査で新たに追加した項目（上記以外に江差護国神社に越前大野藩墓碑1基あり）